

[報 告]

第 32 回高性能シミュレーションに関するワークショップ(WSSP)を開催しました

スーパーコンピューティング研究部 滝沢寛之

東北大学サイバーサイエンスセンターは、ドイツのシュトゥットガルト大学高性能計算センター(HLRS)、学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点(JHPCN)、HPCI コンソーシアムおよび NEC のご協力を得て、2021 年 12 月 13 日(月)～14 日(火)に高性能計算に関する国際ワークショップ「第 32 回 Workshop on Sustained Simulation Performance (WSSP)」を開催しました。本ワークショップは、国際的に活躍している計算科学の研究者及びスーパーコンピュータ設計者を招いて、高性能・高効率大規模科学計算に関する最新の研究成果の情報交換を行うとともに、今後のスーパーコンピュータの研究開発のあり方を議論することを目的としています。

今回の WSSP は、東北大学サイバーサイエンスセンターの関係者と日本国内の講演者の一部のみが仙台会場に集まり、それ以外の講演者や聴講者はオンライン参加するというハイブリッド形式での開催となりました。ヨーロッパとの時差を考慮して、双方の参加者が比較的参加しやすい時間帯に講演時間を設定しました。日本標準時での開催時間は以下の通りです。

12/12(月) 15 : 00 - 19 : 30

12/13(火) 15 : 00 - 20 : 30

本ワークショップでは技術講演として全部で 17 件の発表があり、日本、ドイツ、ロシアの研究者により、HPC 技術動向、HPC システム評価、アプリケーション開発の幅広い分野のトピックの講演がありました。参加登録者数は 106 名に上り、終始多くの方々にご参加いただきました。

海外からは、HLRS センター長の Michael Resch 氏による HLRS の現状と課題、および将来展望に関する講演、モスクワ州立大学研究計算センター長の Vladimir Voevodin 氏による地球物理学に基づく大規模気象シミュレーションに関する講演、アーヘン工科大学の Matthias Meinke 氏による飛行機着陸脚の騒音解析に関する講演などがありました。

日本からは、理学研究所の佐藤三久氏、坪倉誠氏、佐野健太郎氏、筑波大学の朴泰佑氏、神戸大学の横川三津夫氏、東京理科大学の塚原隆裕氏、大阪大学の伊達進氏に加えて、多数の NEC の技術者が講演を行いました。さらに、主催である東北大学サイバーサイエンスセンターからも、スーパーコンピュータ A0BA の運用や性能評価に関する講演を行いました。

コロナウイルス感染拡大防止の観点から一部の講演者・関係者だけになってしまいましたが、今回の WSSP では仙台会場に集まって議論を深めることができ、実際に会って話をすることの重要性を改めて実感する機会となりました。一刻も早く世界がコロナ前の状況に戻り、以前のような国際会議・ワークショップを開催できるようになることを願うばかりです。

第 32 回 WSSP に関するその他の詳細は、以下のページをご覧ください。

<https://www.sc.cc.tohoku.ac.jp/wssp32/ja/index.html>

